

2022.12

福田美術館

報道関係者各位

# 「日本画革命 ～魁夷・又造ら近代日本画の旗手」 開催のお知らせ



日時 | 2023年1月28日(土)～2023年4月9日(日)  
 10:00～17:00 (最終入館16:30)  
 休館日 | 火曜日 ※3月21日(火・祝)は開館  
 主催 | 福田美術館・京都新聞

作品総数：77点 (全て当館初公開)  
 前期後期なし ※一部入れ替えあり

※作品点数は変わる可能性があります

## 福田美術館に新たに加わった、珠玉のコレクション約200点

現在、福田美術館は約1800点のコレクションを有しています。このうち約200点は、元々、国内有数の美術収集家であった山本憲治（1946-2020）氏の所蔵品であり、昨年福田コレクションに新しく加わったものです。明治から昭和時代に活躍した有名画家たちの秀作が揃った素晴らしい作品群であり、当館の近代日本画セクションがさらに充実することとなりました。

本展では新所蔵品の中から、近代日本画壇に革命を起こした画家たちの名品をご紹介します。従来の福美の企画展とは一味違ったラインナップをお楽しみください。

山口蓬春《百合》  
©公益財団法人JR東海生涯学習財団



### 第1章：新しい日本画の境地

近代の日本画には、江戸時代までとは全く異なる価値観による「革命」がありました。伝統を継承するだけでなく、誰も表現しなかったような個性を強く発揮したものがこそが素晴らしい、とする価値観の革命が起きたのです。第1展示室では、近代日本画の先駆けとなった日本美術院を創設し、新しい日本画の創造を推し進めた岡倉天心のもと、展覧会を舞台に先陣を切った横山大観や菱田春草らの作品を展示いたします。さらに、天心の死などにより力を失っていた院展の再興に集った次世代で「院展の三羽鳥」と称された安田靉彦、小林古径、前田青邨等の作品の数々をご紹介します。一方、伝統を尊んできた京都においても、徳岡神泉や山口華楊などの画家が革命の旗手となりました。東京と異なる清新な趣を追求しようとした京都画壇の意欲に溢れる作品もご紹介いたします。



右から横山大観《月満山》、菱田春草《蓬萊山図》、小林古径《撫子》、山口華楊《待春》（いずれも部分）

## 第2章：魁夷・又造「2人の山」

戦後の混乱がなお止まぬ、1940年代後半の日本では、伝統的な日本画を否定する「日本画滅亡論」や「日本画第二芸術論」といった新たな主張が広がっていました。戦後の日本画家たちが新たな活躍の場とした日展の中でも、名前に漢字の「山」が含まれる東山魁夷、杉山寧、高山辰雄の3名は「日展三山」と呼ばれ、斬新な作風で注目を集めました。三山には含まれていませんでしたが、同じく「山」の字を名字に持つ加山又造も戦後を代表する才ある画家の一人です。第2展示室では、青を基調とした象徴的かつ幻想的な作風で一世を風靡した「魁夷の革命」と、日本画の本質的な装飾美を追求した「又造の革命」をご紹介します。



東山魁夷《緑の朝》



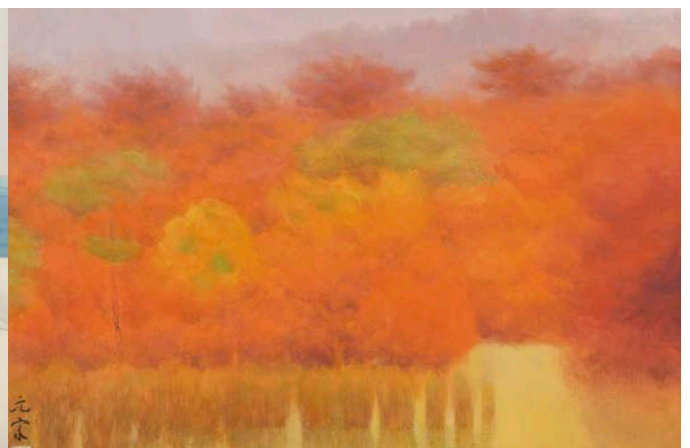
加山又造《雪ノ朝》

## 第3章：故郷の風景

旧山本憲治コレクションから成る本展覧会ですが、内航海運事業を創業した起業家であり美術収集家でもあった山本氏は、瀬戸内海に面した港町の広島・呉の出身。生まれ故郷である中国地方の画家の作品や、海を主題とした絵画などを多く蒐集してきました。パノラマギャラリーでは、岡山県笠岡市に生まれ、生涯故郷の風景を描き続けた小野竹喬と、広島県出身の日本画家、奥田元宋の作品をご紹介します。



小野竹喬《浜辺》



奥田元宋《山雲紅樹》



01\_横山大観・菱田春草  
《飛泉》  
(左幅\_春草筆)



02\_横山大観・菱田春草  
《飛泉》  
(右幅\_大観筆)



03\_山口華楊《待春》



04\_小林古径《撫子》

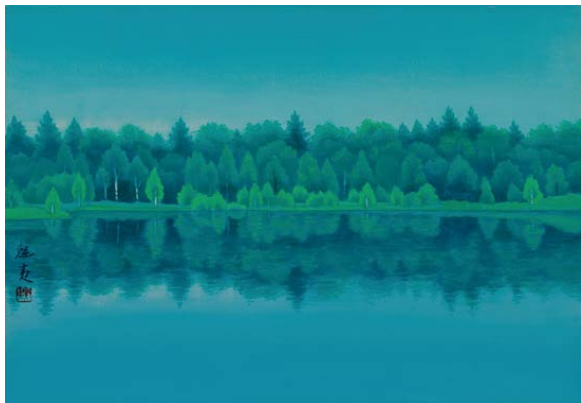


05\_山口蓬春《百合》

※画像の下に「©公益財団法人JR東海生涯学習財団」とクレジットを表記ください



06\_小野竹喬《浜辺》



07\_東山魁夷《緑の朝》



08\_東山魁夷《コペンハーゲンの街・デンマーク》



09\_東山魁夷《緑の園》



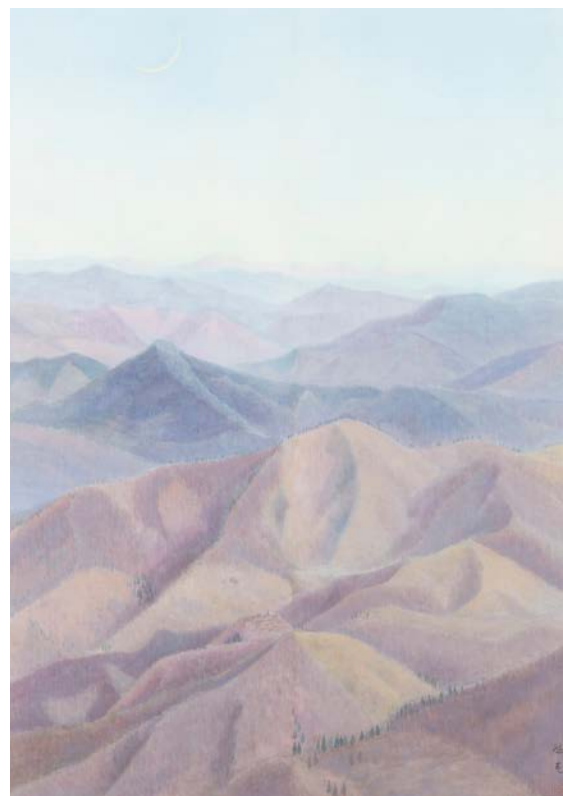
10\_東山魁夷《盛秋》



11\_東山魁夷《春来る湖》



12\_東山魁夷《ヴィラットの運河》



13\_東山魁夷《夕月》

※以下14、15の作品は掲載するにあたり申請が必要です。また、別途費用がかかります。



14\_加山又造《雪ノ朝》



15\_加山又造《日輪》

## 企画展概要

企画展名	「日本画革命 ～魁夷・又造ら近代日本画の旗手」
開催日程	2023年1月28日（土）～2023年4月9日（日） ※前期後期なし、一部展示替えあり
主催	福田美術館・京都新聞
休館	毎週火曜日（但、3/21は開館）
場所	福田美術館 〒616-8385 京都府京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町3-16 <a href="https://fukuda-art-museum.jp/">https://fukuda-art-museum.jp/</a>
料金	一般・大学生 ¥1,300/高校生 ¥700/小中学生 ¥400 障がい者と介添人1名まで 各¥700

担当学芸員：森田佑弥  
広報：中島真帆

## 本展に関するお問い合わせ

福田美術館・嵯峨嵐山文華館 広報事務局（ウインドラム内）

TEL 03-6661-9448 FAX 03-3664-3833

Email 福田美術館：[fukudamuseum@windam.co.jp](mailto:fukudamuseum@windam.co.jp)

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9-4F

「福田美術館」広報事務局

担当：沼澤、多田

## 福田美術館について

### 美しい自然と日本美術の融和。日本文化の新たな発信拠点として

京都・嵯峨嵐山は古来歌枕でもある場所で、多くの貴族や文化人に愛され芸術家たちが優れた作品を生み出す源泉となってきました。福田美術館は「100年続く美術館」をコンセプトに、現代まで受け継がれてきた日本文化を次世代に伝え、さらなる発展へとつなぐ美術館を目指します。

オーナーである福田吉孝は京都に生まれ育ち、そこで事業を興し、今日まで続けてきたことに対し、地元の方々のご支援とこの地に恩返しをしたいという思いから、2019年10月、美術館の設立に至りました。今や日本国内だけでなく、世界中から多くの人々が訪れる観光地である嵐山。その中でも渡月橋を望む大堰川（桂川）沿いの景勝地に位置し、四季折々でそれぞれに変化する風景は1000年変わらず人々を魅了してきました。この美しい自然とともに日本美術の名品を愉しんでいただくことで、嵐山が世界有数の文化発信地となることを願います。



### 嵐山にふさわしい、未来へむけた日本建築の形

福田美術館の建築を手掛けた安田幸一氏は、「蔵」をイメージした展示室や外の自然とのつながりを感じられる「縁側」のような廊下など、伝統的な京町家のエッセンスを踏まえつつ、これから100年のスタンダードとなるような新しい日本建築を目指しました。また、庭には大堰川に連なる水鏡のごとく嵐山を映し出す水盤が設けられており、渡月橋が最も美しく一望できるカフェからは最高の眺めを味わうことができます。

